

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1305	学校名	新潟小学校	校長名	山田 浩之	作成者名	荒木 学
学校教育推進サポート担当者名		荒木 学				電 話	025-228-3059

1 実践のテーマ

通常学級で困難を抱えている児童が笑顔で活動するための支援の工夫（2年次）
～教育的ニーズに即した合理的配慮の提供と個別最適な学びの推進～

2 テーマ設定の理由

当校には、通常学級において困難を抱えている児童が数多くおり、その困難さから学習活動に取り組めない様子が散見されていた。さらに、周りの児童が影響を受ける形で学級全体が落ち着かなくなることも度々あった。そこで「通常学級で困難を抱えている児童が笑顔で活動するための支援の工夫」をテーマに令和6年度学校園教育推進サポート事業に取り組んだ。リソースルームの活用など当該児童の教育的ニーズに即した合理的配慮を提供し、学習意欲を大幅に向上させるなど一定の成果をあげることができた。一方、困難を抱えているのは目立つ言動をとる児童だけではない。普通に過ごしているように見える児童でも何らかの困り感を抱えており、当校では、それらの児童が日々の学校生活において意欲を減退させ、不登校へとつながるケースが増加している。目立つ言動をとる児童へ適切な支援を行い、さらに学校生活の基盤となる授業において、一人一人に最適な学びの場を整え、多くの児童の困り感を軽減させることは、当校にとって喫緊の課題であるとともに、市内の多くの学校が抱える解決すべき最重要課題でもある。

そこで通常学級で困難を抱える児童がさらに安定して学校生活を過ごせるよう、昨年度の取組に改善を加え以下の取組を行う。1つ目は、個々の教育的ニーズに即した合理的配慮を充実させ、困難を抱えている児童へより適切な支援を行うことである。2つ目は、自分なりの学び方を選択できる個別最適な学びを通常学級において推進することで、教育目標に掲げている資質能力である「挑む力・やり抜く力」の育成や各教科等の知識・技能の定着を図り、学習面におけるつまづきを大幅に軽減することである。

当校での取組を広く周知することで、新潟市の通常学級における特別支援教育の推進ならびに学習指導の課題解決の一助になると考え、このテーマを設定した。

3 実践内容

(1) 教育的ニーズに即した合理的配慮の提供

①リソースルームの設置

対象は、学習面・行動面が原因で通常学級では支援が難しい児童。自立活動的な視点を取り入れた学習や個別学習を行う。リソースルームには、特支C0・学級担任・級外職員・支援員・学習支援ボランティアが可能な限り常駐し、対象児童の支援にあたる。

②年度初めのスクリーニング

特支C0が、全学級を参観し、児童を観察する。配慮や支援が必要な子をチェックし、学級担任と共有する。

③校内体制の整備

高い専門性をもつ教諭を特支C0に配置。特支C0が中心となって、リソースルームの運営や困難を抱えている児童への支援体制のスケジュールを組む。また、特支C0を3人体制にし、担当学年を割り振り、相談体制を整備していく。

④特別支援教育に関する職員研修

外部講師を招いての職員研修を実施し、教職員の特別支援教育に関わる知見を深めていく。

(2) 個別最適な学びの推進

① 指導の個別化・学習の個性化のモデル開発

児童の学習意欲の向上や学習内容の定着を図るため、学年に応じた自由進度学習や探究活動等をよりよい学習方法を模索し、指導の個別化・学習の個性化のモデル開発を行う。

② 職員研修の充実

個別最適な学びの在り方を教職員一丸となって、職員研修を推進することで、教職員の授業力向上を図る。指導者として文科省初等中等教育局主任視学官の田村学様、中京大学教養教育研究院教授の泰山裕様を招聘し、当校の取組について年間通してご指導いただく。

③ 研究会の実施

令和7年12月5日（金）に当校の取組の成果を発表する形で実施。指導者として、上述のお二方を招聘し、主体的な学びを促す個別最適な学びの在り方について授業公開を行う。

4 実践計画

実施時期	実施内容（研修会、先進校視察、授業公開 等）
4月	全校スクリーニング リソースルーム運用開始
5月	職員研修（研究）
7月	職員研修（特別支援、研究）
9月	職員研修（研究）
12月5日	研究会

5 成果

(1) 教育的ニーズに即した合理的配慮の提供

学習面や情緒面で困難を抱えている児童6名を対象にリソースルームで個別指導を行った。児童は、リソースルームの中で、「できた」「わかった」という経験を積み重ね、学習意欲や自己肯定感を大いに高める様子が見られた。特に、情緒面が不安定だった児童については、個別学習以外に、自立活動的な視点を取り入れた学習に継続的に取り組んだ。「おしゃべりタイム」や「ゆったりタイム」などを取り入れた1時間の流れを整え、授業者が傾聴や肯定を意識して指導にあたることで、児童の他者理解や自己理解を促進することができ、授業中の逸脱行為や迷惑行為の減少につながった。リソースルームでの取組の様子や成果は、教育研究会で参会者に紙面発表した。



リソースルームにおける自立活動的な視点を取り入れた学習の1時間の流れ

(2) 個別最適な学びの推進

4月より、中京大学 泰山 裕様、新潟青陵大学 堀田雄大様より、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の実現に向けた単元づくり、授業づくりについて継続して指導していただいた。その実現に向けては、子どもに学びを委ねることが大切であり、その中で子ども自身が学びを深めていけるような働き掛けや環境づくりをしていくことが必要であることが分かった。

そこで、新潟小学校では、各教科において、探究的な学習過程になるように単元計画を立て、導入では、単元のゴールと評価基準（ルーブリック）を教師と児童とで確認するガイダンスをした上で、子どもに学びを委ねるといった単元づくりをしてきた。また、その中で教師が子どもの学びの自覚を促す働き掛けをしたり、多様な学び方を支える環境整備をしたりする授業づくりを進めてきた。

その結果、日々の授業において、これまで学習に自ら取り組みようとする意欲が低かった子どもたちも、学び方を選択しながら、自分で学び進めようとする様子が見られるようになった。

教育研究会は県内外から約140名の申し込みがあった。公開授業では、一人一人の子どもたちが、これまでの授業で身に付けてきた学び方を生かしながら、自分に合った学び方を選んで主体的に追究する姿が見られた。

